

別記第5－1号様式（第9の関係）

鳥獣被害対策実践事業の事業評価（令和元年度報告）

1 事業実施総括表

区分	年度
被害防止計画目標年度	令和元年度
被害防止計画作成年度	平成 28 年度

区分	事業実施主体	構成市町村名	事業費	うち国庫交付金
推進事業	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	指宿市	H29 年度 33,348 円	H29 年度 15,000 円
			H30 年度 31,404 円	H30 年度 15,000 円
			R 元年度 1,270,386 円	R 元年度 618,000 円
整備事業	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	指宿市	H29 年度 4,920,505 円	H29 年度 4,518,000 円
			H30 年度 0 円	H30 年度 0 円
			R 元年度 0 円	R 元年度 0 円
緊急捕獲活動支援事業	指宿市有害鳥獣捕獲対策協議会	指宿市	H29 年度 1,873,800 円	H29 年度 1,873,800 円
			H30 年度 1,900,000 円	H30 年度 1,900,000 円
			R 元年度 2,613,600 円	R 元年度 2,613,600 円

2 事業の取組状況

区分	対象地域	実施年度	対象鳥獣	実施内容	事業量	管理主体	利用開始年度	利用率稼働率	備考
推進事業	指宿市全域	H29 年度	全鳥獣	個体数調整	・免許取得事前講習会（3名） ・協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	H29 年度	100%	
	指宿市全域	H30 年度	全鳥獣	個体数調整	・免許取得事前講習会（3名） ・協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	H30 年度	100%	
	指宿市全域	R 元年度	イノシシ アナグマ，タヌキ 全鳥獣	個体数調整	・イノシシ用箱わな（19基），タヌキ，アナグマ用箱わな（30基） ・免許取得事前講習会（7名） ・協議会費	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	R 元年度	100%	
整備事業	指宿市尾掛地区	H29 年度	アナグマ	鳥獣害防止施設	・4段張電気柵設置総延長（11,208m） ・防鳥網（489a） ：尾掛地区（276a） ：成川地区（82a） ：小牧地区（131a）	指宿市鳥獣被害防止対策協議会	H29 年度	100%	
	指宿市尾掛地区 成川地区 小牧地区		ヒヨドリ カラス						
		H30 年度	—	—	—	—	—	—	—
		R 元年度	—	—	—	—	—	—	—

区分	対象地域	実施年度	対象鳥獣	実施内容	事業量	管理主体	利用開始年度	利用率稼働率	備考
緊急捕獲活動支援事業	指宿市全域	H29 年度	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	イノシ成獣 167 頭 イノシ幼獣 10 頭 シカ 14 頭 サル 2 頭 アナグマ 183 頭 タヌキ 61 頭 カラス 359 羽 ヒヨドリ 420 羽	指宿市有害鳥獣捕獲対策協議会	H29 年度	100%	
	指宿市全域	H30 年度	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	イノシ成獣 189 頭 イノシ幼獣 15 頭 シカ 9 頭 サル 0 頭 アナグマ 250 頭 タヌキ 97 頭 カラス 459 羽 ヒヨドリ 301 羽	指宿市有害鳥獣捕獲対策協議会	H30 年度	100%	
	指宿市全域	R 元年度	イノシシ シカ サル アナグマ タヌキ カラス ヒヨドリ	有害捕獲	イノシ成獣 232 頭 イノシ幼獣 40 頭 シカ 82 頭 サル 0 頭 アナグマ 195 頭 タヌキ 50 頭 カラス 438 羽 ヒヨドリ 215 羽	指宿市有害鳥獣捕獲対策協議会	R 元年度	100%	

注：実施内容の欄には、推進事業であれば「推進体制の整備」、「個体数調整」、「被害防除」、「生息環境管理」、「大規模緩衝帯整備」、「誘導捕獲柵の導入」を、整備事業であれば「鳥獣害防止施設」、「施設処理加工施設」、「捕獲技術高度化施設」、「地域提案」を記入のすること

3 被害防止計画の目標と達成状況

項目	被害防止計画の目標と実績			
	基準年(年度)の実績値(27 年度) ①	目標値(令和元年度) ②	目標年の実績値(令和元年度) ③	達成率 $\frac{\text{①}-\text{③}}{\text{①}-\text{②}}$
被害金額の軽減	6,673 千円	4,667 千円	27,097 千円	△1,018%
被害面積の軽減	132.5ha	92.6ha	7.7ha	313%

注：達成率が 70%未満の場合は、鳥獣被害防止総合対策交付金実施要領（平成 20 年 3 月 31 日付け 19 生産第 9424 号農林水産省生産局長通知）に基づく改善計画（別記様式第 4 号）を添付すること

4 事業効果等

項目	内 容
事業効果	事業の取組により、平成 29 年度から令和元年度にかけて、新たに 13 名が狩猟免許を取得し、有害鳥獣捕獲隊員の確保につながっている。 捕獲活動については、箱わなの導入により、イノシシやアナグマが安定して捕獲できるようになり、特にイノシシの捕獲頭数が大幅に上がっている。また、捕獲報奨金の支給により、捕獲活動を活発に行うことができている。
事業実施主体の評価	関係機関と連携し、生産者や地域住民に対して鳥獣被害防止対策研修会を開催するなど鳥獣被害対策についての普及・啓発を図ることができている。引き続き、研修会を行うことで行政主体ではなく、住民が主体となった鳥獣害に強い集落づくりを進めていく必要がある。 ヒヨドリの飛来により、被害防止計画の目標達成はできなかったが、イノシシ、シカについては、捕獲体制の整備により効率的に捕獲できている。今後も捕獲従事者に対する支援を行い、効果的な取り組みを行っていきたい。
振興局・支庁(県)の評価	目標年(R 元)において、獣類では、イノシシによる被害は、事業効果により目標並に抑えられたが、アナグマ、サルの被害が大きかった。鳥類では、カラス、ヒヨドリの被害が大きかった。特に、ヒヨドリによる、葉茎菜類・豆類への被害が大きく増加した。 獣類では、アナグマ、サルによる被害対策の徹底、鳥類では、ヒヨドリによる冬場の露地野菜への被害対策の徹底が必要と考える。

5 第三者の意見

所属及び役職名	(一財)鹿児島県環境技術協会環境調査部参事 (一財)鹿児島県環境技術協会環境生物課主査	氏 名	塩谷 克典 稲留 陽尉
---------	--	-----	----------------

ヒヨドリを除くとアナグマによる被害額が大きい。農業従事者は、自衛のために農地周辺に罠を設置しており、被害軽減のために加害個体を捕獲する観点からは有効と考えられる。箱罠による捕獲は、事業にて購入した箱罠が大部分を占めており、有効に活用されている。

アナグマは、電気柵の効果は低いため、イノシシ対策としても有効なワイヤーメッシュ柵の導入を進めることが望ましい。一方、整備事業は、要件を満たすことが難しいとのことから、市単独の助成金を活用できる取組みが期待される。

シカは、捕獲効果により被害は沈静化している。今後は、住民の対策意識の向上に向け研修や被害対策の普及啓発を行うとともに、被害等関連情報の継続的な整理が望まれる。

ヒヨドリによる葉茎菜類への被害は、面積が大きく防鳥網の設置は現実的でないとのことなので、ヒヨドリの捕獲に特化した人材の育成、配置を検討し、防鳥網を使用する農地と状況に応じた対策が求められる。結果としてカラスへの対策にも活用できると考えられる。

6 施設設置後の被害状況等（※施設整備を行っている場合のみ記載）

(※別紙 別記様式第8号関係様式に記載)

[illegible]

鳥獣被害防止施設等設置後の被害状況等について

[illegible]